

令和7年度病害虫発生予察特殊報第5号

令和8年1月30日
愛知県

1 病害虫名 ハクサイ黄化モザイク病

2 病原ウイルス カブ黄化モザイクウイルス
turnip yellow mosaic virus (TYMV, *Tymovirus brassicae*)

3 発生作物 ハクサイ

4 本県における発生確認の経過

令和7年10月、県内のハクサイほ場において、葉脈に沿った明瞭なモザイク症状を生じる被害が確認されたため、農業総合試験場でRT-PCR法を用いた簡易検定を行ったところ、本県未確認であるハクサイ黄化モザイク病の発生が疑われた。そのため、名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、ハクサイ黄化モザイク病であることが確認された。

5 全国における確認状況

平成18年に岡山県で初めて特殊報が発表され、北海道においても発生が確認されている。

6 病徵及び発生態

- (1) 初めは中上位葉に退緑斑点を生じ、後に葉全体が退緑して黄白色となり、葉脈に沿った明瞭なモザイク症状を呈する(写真1～3)。
- (2) 重症株は葉が萎縮して株全体の生育が悪くなり、結球葉の葉脈間に紫褐色のえそ斑点を生じる。
- (3) 本ウイルスは種子伝染、接触伝染、ハムシ類による虫媒伝染が報告されている。
- (4) 本ウイルスの宿主範囲はキャベツ、カリフラワー、コマツナなどのアブラナ科植物とされている。

7 防除対策

- (1) 被害株は二次伝染源となるため、速やかにほ場外に持ち出し、土中に埋却するなど適切に処分する。
- (2) 発生ほ場の管理作業は最後に行う。
- (3) 本ウイルスを伝搬するハムシ類の防除を行う。
- (4) アブラナ科雑草は本ウイルスの伝染源となる恐れがあるため、除草を行う。
- (5) 被害株と同一ロットの種子は使用しない。



写真1 葉のモザイク症状



写真2 モザイク症状が進んだ葉



写真3 全体が黄白色となった被害株

8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-41-9513